

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0193800083), 法人名 (株式会社富川グロリアホーム), 事業所名 (認知症対応型共同生活介護 こころのホームふれない), 所在地 (沙流郡平取町振内31番地 17), 自己評価作成日 (平成31年3月8日), 評価結果市町村受理日, 平成31年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム開設後6年間は事業所内研修事業としての初任者研修や実務者研修による「人材育成」への取り組みを実施して来ました。また、自然が豊かな環境にある為、環境整備(除雪、草刈り、除雪等)に、事業所として主体的に取り組んでいます。毎週の介護予防教室は、職員によるふまねっと カフェ和花での習字等継続的に実施中で、さらに畑づくり等と共に行う事で、利用者様の生活支援に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193800083-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年3月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平取町の2番目に大きい振内地区に2013年に設立された町で唯一のグループホームである。事業所は地域の中心部、小学校や保育園の近く、町営住宅にも隣接しており、窓からは緑と木々と日高の山々が展望でき、静かで落ち着いた環境下に立地している。当事業所は2013年の4月に1ユニット、5月にもう1ユニットが開設されたが、5年を経過した昨年の10月に職員不足から1ユニットを休止し、現在は1ユニット9名と休止中のホームを高齢者住宅に転化し2名の11人が生活を続けている。将来的には1ユニット6人×2の構想で運営を考えている。当事業所の優秀な点は、ICF(国際生活機能分類)の活用が挙げられる。ICFは「生きるための全体像」を検証する用法であり、個性を尊重して構造的に把握することが求められるが、当事業所では、利用者個々人への理解や分析が介護員により日々行われ、書面での報告が義務化されている。このことにより、介護員は利用者にとっての必要事項の理解を促進し、書面による報告で本人の把握と表現力を培っている。また介護においても、上履きを排した裸足の介護で、利用者と同じ目線の介護に徹している点も高く評価したい。本部の医師がケアマネや介護福祉士資格を有し、仲間として介護を担っている当事業所の今後に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等での確認	良い介護は我々を生かし、成長させ、希望を与える、として理念を掲示し、日々の目標としている。個々の取り組みやアプローチは、理念への一歩としてICF分析を活用している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入 動物を通しての保育所との交流 隣接する小学校行事への参加 等	小さな地域であり、何事も一体となって行っている。保育所や小学校、中学行と連携し、学校の行事は必ず参加しており、お互いの協力関係が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室(カフェ和花等)への利用者様と地域の方が一緒に参加する機会を持つ		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的運営推進会議の開催	定期開催し、議事内容も行事の報告や利用者の実情等から、事故やヒヤリハットの詳細まで開示報告し、今後の事業所運営に繋げている。	運営推進会議では第三者を入れて審議しており、事業所の実情や透明性に強く関わっているため、審議内容については議事録として関係機関や家族宅に送付し、より質の高いサービスに取り組む様期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保健福祉課、地域包括センターとの定期的な情報交換の実施	町で唯一の事業所であり、情報交換を含め定期的に連絡を交わしている。法や制度の変更や疑問点等にも協力的であり、信頼できる体制が続いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護計画担当者が中心に身体拘束しないケア計画の作成と実勢	身体拘束禁止委員会を立ち上げ、指針と共に職員への浸透を図っている。委員会は3月ヶ月に一度開催し、不適切事例の解明を中心に検討を重ね、直近の職員会議にて報告し、拘束も抑制も無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護計画担当者を中心に、虐待防止のための研修を定期的に事業所内で開催(主に定期ミーティングに合わせて)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方でも利用される方がおられ、職員内でも情報共有を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における説明と利用者様やご家族の納得が得られるまでの説明の実施		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族にも訪問して頂き、ご意見をうかがう機会を持っている。	家族の訪問時に、意見や要望、苦情を聴取して職員間で共有し、現状のサービスの見直しに活かしている。	利用者のホームでの生活を便りなどで家族宅に知らせるのは、サービスの質向上を目指すためには不可欠であるため、今後は利用者の様子を手紙等に記し、写真と共に家族宅に送付し、ホームでの生活が少しでも伝わるような取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングで職員の意見を反映させるように努めている。	会議や申し送り時を活用して意見の集約に努めている。またICF分析で職員個々の課題や取り組みが把握できるため、意見や提案と共に現場に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の内容を周知し、具体的に給与条件に反映されるシステムを常に説明している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業内研修(初任者研修等)や事業所外研修(ケアマネ現任研修等、実践者研修、リーダー研修等)への積極的参加を勧める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の視察や研修での意見交換の実施		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(特に優先順位の高い内容を把握するように心がける)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(特に優先順位の高い内容を把握するように心がける)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(自立支援、残存能力の活用を重視したケアプランの作成を心掛ける)		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(家族の役割を的確に把握し、社会連帯の理念による介護に結びつける)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(事業者、家族以外の関係も重視し、生活全般の支援に結びつける)	ICFシートの活用により、本人が望むものや必要な事項、生活や習慣から必要な事を分析し、見慣れた景色や馴染みの味、生活に関わる関係性が途絶えないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(利用者同士の関係が、互いの自立支援に結びつくように支援する)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、ご家族からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、信頼関係の確立を目指している。(個々人の生活史を尊重しつつケアプランに反映させる)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族、職員からの情報収集と共有した内容をICFシートに記載し、さらに介護計画に反映させたサービス提供による、信頼関係の確立を目指す。(自立支援、残存能力の活用を重視したケアプランの作成を心掛ける)	日常的に支援していく中から、必要な事や思い、希望を理解し、共有している。またICFシートの分析から役割や参加の意向を把握して、本人本位の生活を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族及び職員からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による個々人の生活史を尊重しつつケアプランの作成に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ICFシートには直接反映させにくい、個々人の24時間の生活の流れと、それに伴って現れるニーズに配慮した介護の提供を心掛ける。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族及び職員からの情報収集と、その結果のICFシート作成と介護計画に基づいたサービス提供による、さらに日々のミーティング内容の共有により個々人の生活史を尊重しつつケアプランに反映させる。	現状では、CIFシートの作成が介護計画まで直結しておらず、記載と分析を含めながらモニタリングやカンファレンス等々のミーティングを積み重ねて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小ミーティングを積み上げ、気づきを職員全体で共有することに努める		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、職員からの情報収集と、その結果のICFシートへの記載により、適切な介護計画に基づいたサービス提供による、個々人の生活史を尊重した柔軟なケアの実践を試みている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力で読み聞かせや習字(カフェ和花等で実施)、さらに屋外での植栽などを職員と共に実施		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療体制を理解し、適切な医療サービスの提供を介護職員としても理解し支援している。	地域には診療所と歯科が1軒あるのみで、かかりつけ医が協力医となっている。訪問診療を含め看護職員も配置し、現状での適切な医療を確保提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連携の下での利用者様の健康管理の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフとの情報共有の実践		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として、出来ることの指針を明確に説明し、ご家族ご本人を混乱させない運営を心掛ける。	看取り介護については積極的に取り組んでいるが、経管栄養や点滴の24時間管理は不可能であるため、医療的な限界を踏まえて適切な対応で本人・家族に説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急隊への連絡や病状説明に、職員全員が協力できる体制をとる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や、避難場所に対する協力の依頼	年に2回の避難訓練を実施している。昨年の地震や停電に対処し、暖房用には石油ストーブを整備し、食事用にガスコンロも用意して不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、身だしなみについては、常に研修にて確認する。	介護の基本は接遇からと考え、研修を中心に対応や声掛けに注意している。またトイレには内側にカーテンを付け、プライバシーの保護に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様をご自分で判断することを支援する環境づくりを心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを大切にしながら日常生活の支援を行う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段からお化粧されている方は、生活リズムを大切にしつつ支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を料理に取り入れるとともに、野菜や鶏卵の収穫や採取を行い、食事が豊かになることを心掛ける。	献立はその日の希望と冷蔵庫内の食材を見ながら調理し、町内のコンビニやAコープから食材を購入している。地域が畑作のため、野菜類の差し入れも多く、季節に応じた食事となっている。またその人に応じた手伝いもお願いし、楽しい食卓に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った嚥下・咀嚼ケアの実践を心掛ける		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや、うがいを心掛ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リズムの把握に基づいたさりげない支援と自立への促し(特に布パンツの使用へ)	排泄はトイレで行うことを共通認識しており、時間や仕草で誘導や促しを行っている。オムツから布パンツへ、無理なく自立できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食事と乳製品等の活用		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2度の入浴の中で、出来る限り柔軟な実施を考えている。	週に4日間、お湯を沸かして入浴の支援を行っている。一日に4人くらいの入浴で、ゆっくりと会話も楽しみながら楽しいお風呂を目指して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の睡眠時間やパターンの把握に基づく、睡眠介護の実践		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬援助の実施(誤薬防止のための声上げ確認や、複数での確認)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ鑑賞や新聞購読、生き物の世話等で生活に楽しみを見出すこと支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得つつ、食事や買い物への外出事業所としての散歩等の実施	春の花見や秋の紅葉狩り等、ドライブでの外出の他に、気楽な散歩や散策を楽しめるよう、敷地も広く確保されている。墓参りや外食等は家族の協力を得ながら実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得つつ買い物等でのお金を管理し使用することの支援を行う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、電話での交流の支援や年賀状を楽しみにしていること理解し、やり取りの支援を行う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂く絵や、季節を感じさせる草花を飾ることで、居心地の良さを感じて頂けるように支援する。	建物は大きな平屋造りで、居間や食堂も広く開放的で、大きく開かれた窓からは、鳥や小動物が頻繁に散見でき、壁や廊下には利用者の作品も見受けられ、ゆっくりと居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のご要望に応じた過ごし方を支援する。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の用意を推奨している。	居室には洗面台、ベット、クローゼットが備え付けられ、他に馴染みの家財や家族写真も持ち込まれて、本人の部屋として過ごしやすい工夫が感じられる。また窓が大きく造られており、明るい日差しと見慣れた風景が、穏やかな雰囲気を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	のれんや、目印となるクッション等を用いて、目が不自由な方や認知能力が低下した方でも、出来るだけ住みやすい環境になるように努める		